

スポーツ科学部3つのポリシー

ディプロマ・ポリシー

全学共通に定める「駿大社会人基礎力（①基礎的な力、②考える力、③行動に移す力、④協働する力、⑤総合的な力）」の修得に加えて、以下に示した学部教育を通じて培った知識と技能を身につけた者に学士（スポーツ科学）の学位を授与します。

- (1) スポーツの意義や価値について理解している
- (2) スポーツ科学の理論的な知識を理解している
- (3) スポーツ科学の理論に基づいてスポーツを指導する能力を有している
- (4) スポーツを総合的な視点からとらえ、課題を発見し、問題を解決するための調査（実験）・研究を行い、その内容を卒業研究にまとめることができる
- (5) 主体性、積極性、協調性、リーダーシップ等の他者と協働するために必要な適性を有している
- (6) スポーツと教育コースの修了者は、上記(1)～(5)のことに加え、生涯スポーツ時代における青少年のスポーツ教育に関する知識を有し、学校等の教育現場でスポーツを企画・指導する能力を有している
- (7) スポーツと健康コースの修了者は、上記(1)～(5)のことに加え、生涯スポーツ時代におけるスポーツによる健康の維持増進、競技力向上に関する知識を有し、健康スポーツや競技スポーツの現場でスポーツを企画・指導する能力を有している
- (8) スポーツと地域・社会コースの修了者は、上記(1)～(5)のことに加え、スポーツ文化が持つ多様性や多義性に関する知識を有し、地域社会や国際社会等の現場でスポーツを企画・運営する能力を有している

カリキュラム・ポリシー

本学部では、全学共通に定める「駿大社会人基礎力」を修得するための共通教養教育と、スポーツ科学の理論的な知識や成果を学習する講義科目及び、スポーツの実践力、指導力、企画力等を養う実習科目といった専門教育の各科目を体系的に配置します。これらの科目に加え、修得した知識を組み合わせた総合的な視点からスポーツをとらえ、課題を発見し解決する能力を養う科目を「演習科目群」として教育課程を編成します。さらにアウトキャンパス・スタディ、アクティブ・ラーニング等の先端的手法を取り入れた授業を開設します。また科目ナンバリングを行い、各科目の関連や難易度を示すとともに、カリキュラムツリー等を用いてカリキュラムの体系を示します。

1.教育内容

教育課程を以下の科目に分類し、必要な科目を配置します。

<共通教養教育>

- (1) 基礎教育科目には大学での教育への移行をスムーズにするため、大学での学びの基本とスキルを修得するための科目を配置します。加えて、グローバル化・情報化の著しい社会において必要な語学や海外の文化、ICT リテラシーや数理・データサイエンス・AI の基礎的素養を修得させるための科目を配置します。
- (2) キャリア教育科目には、大学生活を含めた人生設計・就職活動の準備のために、社会人としての就業意識や職業理解を高めるための科目を配置します。
- (3) 地域科目には地域社会を理解し実践的に学ぶための科目を配置します。
- (4) 教養基礎・教養発展科目には基礎的な教養知識・技能を身につけるとともに、現代社会の様々な課題を考察するための科目を配置します。
- (5) 外国語科目には、外国語の運用能力と異文化理解を高めるための科目を配置します。

<専門教育>

- (6) 専攻導入科目には、専攻科目を学ぶ上での入門的な知識・技能を身につけるための科目を配置します。
- (7) 専攻基幹科目には、講義科目としてスポーツ科学の基幹的な知識を身につけるための科目及び実技科目として、スポーツの技能を身につけるための科目を配置します。
- (8) 専攻発展科目には、2 年次以降に分かれる 3 コースごとに、「スポーツと教育コース」では生涯スポーツ時代に対応する青少年のスポーツ教育に関する知識を有するための科目、「スポーツと健康コース」では健康の維持増進、競技力の向上に寄与する知識を有するための科目、「スポーツと地域・社会コース」ではスポーツ文化が持つ多様性や多義性に関する知識を有するための科目を配置します。
- (9) 少人数によるゼミ教育は、3 年次の「ゼミナールⅠ・Ⅱ」、4 年次の「ゼミナールⅢ・Ⅳ」を配置し、一貫性のある総合的な学習を保証します。ゼミの中において 4 年次には卒業研究を必修とし、自らの問題意識に基づきテーマを決定し、調査・実験・研究を行い、その内容を論文としてまとめ、それを要約し、その内容を公の場でプレゼンテーションすることを課します。
- (10) 専攻実践科目には、理論的学習を基礎とした、スポーツの実際を学校、地域等のスポーツ現場等で体験するための科目として、「スポーツと教育実習」「スポーツと健康実習」「スポーツと地域・社会実習」を配置します。

2.教育方法

愛情教育という建学の精神を具体化するために、4 年間を通じて少人数制のゼミナールを配置し、担当教員によるきめ細かい指導により、ひとりひとりの個性や夢を尊重しながら、駿大社会人基礎力の確実な育成を図っていきます。また、学生が教員との協働の中で成長を実感できるようにすることで、学生の主体性や行動力・実行力を向上させます。主体性や行動力・実行力を高めながら、課題発見能力や問題解決能力を育成するために、PBL(Problem-based Learning・Project-based Learning)を始めとするアクティブ・ラーニングなど、先端的教育方法による講義を積極的に実施します。

また、アウトキャンパス・スタディでは、近隣の様々な社会資源を活用し、現実の地域社会の中で学ぶ経験を提供します。

3.評価方法

各科目における講義内容・到達目標・学位授与方針との関連・成績評価方法をシラバス等で明示したうえで、公正かつ厳正に評価を行います。駿大社会人基礎力の到達度の確認は、アセスメントテスト（PROG）を活用して行います。すなわち、社会に出るまでに身につけるべき能力を駿大社会人基礎力として5つの力・15の能力要素に分類し、これらをアセスメントテストによって客観的に測定します。各年次において測定された駿大社会人基礎力は、各自が履歴として一覧することができるため、学生がどれだけできるようになったのか到達度を確認しながら、基礎力の向上を図ることができます。

成績評価は、学習の到達目標の明示から始めて、多様な評価項目を異なった比重で評価し、最終の成績評価に活用します。その際には、記憶だけではなく、様々なスキルを査定します。なお、学生には成績だけでなく、フィードバックを与えることにします。

卒業研究については、卒業研究評価基準に基づき、卒業研究評価用紙を活用し、複数教員による総合的な評価を行います。

アドミッション・ポリシー

養成する人材像や教育課程をふまえ、以下の方針により多様な方式で入学者を選抜します。

- (1) 高等学校までの基礎的な知識や技能を身につけている。
- (2) 論理的思考力を持ち、自分の考えをわかりやすく表現することができる。
- (3) スポーツ（課外活動等）に興味を持ち、諸活動を通じて、自ら学び試行し行動することができる。

以上のような入学者を選抜するために、学力試験、面接試験、書類審査、模擬授業及び課題審査等を取り入れた多様な入学者選抜を実施します。

[2023年4月改定]